

協働通信

協働のまちづくりの基本理念

自助・共助・公助とは？

協働のまちづくりを進めていくうえで、「自助・共助・公助」という言葉がよく使われます。地域や社会で起こる問題や課題を、自分自身の行動で解決することを「自助」、地域や近隣住民の協力により解決することを「共助」、そして、自助や共助で解決できないことを、市や県、国など公の機関が支援し、解決にあたることを「公助」と呼びます。住むことに誇りと愛情の持てるまち、安全で安心なまちをつくるためには、自助、共助、公助のいずれも欠くことはできず、地域に関わる全ての人々が協働する(各主体が、互いの自主性を尊重しつつ、各役割と責任に基づき、対等な立場で相互に補完し、協力する【都留市自治基本条例より】)ことが必要です。

「自助」 自分の安全を自分で守る

この度、発生した「東日本大震災」のような大規模災害が発生した際の、自助・共助・公助は次のようになります。

災害からあなたとあなたの家族を守れるのはあなた自身です。普段から災害に関する知識を身につけ、災害を正

しく理解し、何を備えておけばよいかを考え、災害に対する準備をしておく必要があります。

- ▽都留市まちづくり
市民活動支援
センター
上谷2-1-15
- ▽開館
月～金曜日(祝日除)
8:30～17:30
- ▽問合せ先
☎(46)5236
FAX(46)5237
E-mail:shien@city.
tsuru.yamanashi.jp



■防災訓練などに参加して、地域の皆さんと一緒に地域の防災力強化に努めましょう。

「共助」 私たちの地域を私たちで守る

いざというときに頼りになるのは、隣近所の方、日ごろから防災訓練を行っている地域の方々です。普段から近所づきあいを大切に、地域の活動に参加するなど、地域力をつけておくことが大切です。自主防災会、消防団、地

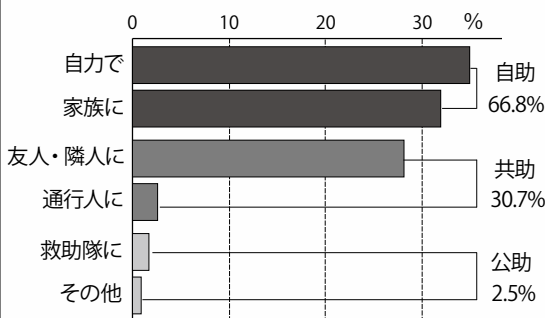
災害に対する準備には、自分が住んでいる地域の危険個所の把握や避難場所・避難経路の確認などを日常の中で行うことが必要です。また、家具類などの転倒・落下防止の対策や災害発生時の非常持ち出し品を準備しておくことが必要です。

「公助」 公的な支援

域協働のまちづくり推進会など地域での災害への備えが、災害から地域の住民を守ります。地域の特性を理解したうえで、地域のお年寄りや災害弱者を支えあう仕組みづくりが今まで以上に求められています。

市を始め県や国、警察・消防・自衛隊といった行政が、住民やライフラインを整備する企業などと連携し、応急対策活動を行います。各機関とも、災害の発生からできるだけ早く、応急対策活動にあたるよう備える必要があります。

生き埋めや閉じ込められた際の救助方法



■兵庫県南部地震における生き埋めや閉じ込められた際の救助方法の一覧。救助方法のほとんどが自助と共助です。

お互いの信頼関係

時に生き埋めや閉じ込められた人の救助を誰が行ったかを表したものです。被害が大きすぎて救急などが対応しきれない場合や、道路の寸断などにより救助隊が現場にたどり着けない場合において、災害発生直後の人命救助や初期の消火活動は、自助や共助が特に大きな役割を果たすことがわかります。

最後に重要な事として、自助・共助・公助が機能し、協働するために一番大切なことは、お互いの信頼関係です。家族間のきずなや、近所どうし、地域のつながり、住民と行政のつながりなど、顔の見える信頼関係を築くことが必要不可欠です。また、日本は、古くから一人ひとりが助け合いながら守ってきた国です。そして、戦災や震災などから立ち直ってきた国です。自助・共助・公助により、私たちそれぞれができることを、助け合い協力しながら皆でまちづくりに取り組むことが大切です。

3月11日に予定されていた「第3回都留市市民活動団体交流会」は、東北地方太平洋沖地震による停電の影響で、中止させていただきました。謹んでお詫び申し上げます。

また、この度の、東北関東大震災により被災された方、また、被災地にご家族、友人知人のある皆様に心からお見舞い申し上げます。